

TTC 事務局員の紹介

担当部長（標準化）^{いまほり はじめ} 今堀 元

2020年4月から前任者の担当を引き継ぎまして、SG16（マルチメディア応用専門委員会）、SG2（番号計画専門委員会）、SG5（ICTと気候変動SWG）、及びSG12（網管理門委員会）を担当させて頂く事となりました。未だ不慣れな点多く右往左往することがありますがどうぞ宜しくお願いします。

三菱電機では主に画像伝送関係の仕事に携わってきました。入社時から約15年間はTV会議システム、主に周辺装置の開発を担当しておりました。当時IP網はまだ普及してなく、ISDN回線（64Kbpsなど）を使いエンドtoエンド通信で準動画伝送（圧縮方式は映像H.261、音声G.711orG726）を行っていました。私は1モニタ画面の中に2台のカメラ画像を合成表示させたり、2台のモニタ画面（当時ブラウン管）に1台のカメラ画像を分離させ表示する画像スプリット合成装置や、発言した人のカメラ画像を選択表示させる音声追従装置などの周辺装置の製作を行っていました。半田ごてとオシロスコープを片手に基板に向かっていたのを覚えています。その後TV会議事業収束と共に画像伝送関係とい

うことで監視カメラや入退室装置などを組合せたセキュリティーシステムの設計を任されました。カメラ数百台規模の某空港や、日々数万人規模で出入りする関西地方の超高層ビルなどを始め様々な現場のセキュリティーシステム構築を経験しました。

標準化活動はいろいろ学びながら進めていくこととなります。まだまだ駆け出しです。決して器用ではありませんがこの世界で精進していきたいと思っておりますので皆様のご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

担当部長（標準化）^{よしはら ともき} 吉原 知樹

2020年の4月よりTTC事務局として勤務させて頂くことになりました。これまではNECにおいて、主にコア系光通信装置の開発に携わってきました。入社時して約10年間では150Mb/s、600Mb/s、2.4Gb/s等のSDH多重化装置等を担当いたしました。その後、EDFAが登場し、WDM信号の一括増幅が実用化されるようになると、WDM光通信装置の開発に携わるようになりました。この間、装置で扱う単一波長当たりのビットレートも10Gb/s、40Gb/s、100Gb/sと増加していきました。100Gb/sに至っては、偏波多重も使用し、デジタル信号処理でコヒーレント検波を行っており、技術の進歩を痛感しています。また、ここ約1年は一般財団法人光産業技術振興協会において技術戦略の策定業務等の事務局に携ってまいりました。

TTCでは、前任者の担当を引き継ぎまして、伝送網・電磁環境、光ファイバ伝送、アクセス網、企業ネットワークの4つの専門委員会の事務局を担当させて頂きます。今年度はCOVID-19の影響により、TTC業務の立上げに時間を要しているのではと感じています。今後いろいろ勉強して参りますので、皆様のご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

